

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月17日

事業所名 あいあいの丘ふあみり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		生活介護との多機能型事業所のため、ついたてで仕切るなど、できる限り空間を分け落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		配置数は適切であるが、既定の配置数で十分に支援することが困難な時などは生活介護スタッフと業務の職員を配置するなどしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		カンファレンスを利用し、できる限り全ての職員に参画してもらえようと考えているが、管理者・児発管・リーダーなど、限られた職員の中での話し合いになりがち。事業所メールを活用したり、障がいサービス事業所ソフトを活用しながら、取り組んでいきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意見を集約し、カンファにて検討。改善に努めている。	コロナの影響により保護者と直接話す機会が減り、評価表においては意見が少なく、保護者の意向が見えにくいため、定期的に個々に電話やメールにてご意見・ご要望を伺うようにしていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員をお願いはしたが、外部評価は行っていない。行うようにする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内研修を毎年計画しており、各自の個々の課題により受講する研修を管理者が検討して提起し、受講している。	コロナの影響により、外部の研修はZOOMなどが増えており、逆に受講しやすくなっており、受講が増えた。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者・担任・相談支援専門員など、色々な方の情報をもとに計画を作成するよう心掛けている。	コロナの影響により、直接対面で話す機会が減っており、電話にての聞き取りの際などは今まで以上に丁寧な聞き取りが必要。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			ソフトを導入し、使い慣れるのに少し手間取っているが、さらに活用していけるようにする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフから意見を聞き、児発管・管理者など常勤職員で立案し検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		学校の先生に学校で行っている活動を教えて頂いたり、研修に行くなどし、固定化しないよう検討している。	活動プログラムが固定化しないよう、職員研修や他事業所・他施設などの取組を、カンファ時などに学習する機会を設け、工夫していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		平日、休日、長期休暇に応じて課題を設定し、支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○		集団活動の計画は弱い。子ども達の状況に応じて、集団活動を計画に位置付けられるよう、検討する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		送迎があり、皆が朝から揃うことが困難なため、打ち合わせは行っていないが、職員間メールや申し送りノートを活用し、必ず確認は行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		送迎があり、皆が夕方揃うことが困難なため、職員間メールや申し送りノートを活用し、連絡を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		記録の取り方についてカンファで話し合ったり、研修を行ったりしているが、職員によって記録のつけ方にばらつきがある。更なるスキルアップを目指す。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			コロナの影響により、対面での聞き取りが困難な状況なので、より丁寧な聞き取りをするよう心掛ける。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○		ガイドラインの基本活動を確認し、支援を行っていくよう、検討する。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者を中心に、児童の状況を理解している者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校へ電話したり、学校へのお迎え時に様子を伺うなど、担任の先生や教頭先生と連絡を取り合っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在、医療的ケア児の利用はないが、連絡体制は整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		利用していたところのある児童については、情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		卒業前のケース会議等に参加し、情報提供を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			近隣に専門機関がない。相談支援専門員とは連携を図り、研修への参加は受講可能なものには参加をしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			近くの保育園児の慰問があったり、合同避難訓練を行ったりしているが、今年度もコロナにより未実施。放課後クラブの川遊び体験を一緒に行いたいと考えているが、それ自体もコロナにより実施がなく、交流するに至らなかった。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			子どもの状況を保護者と伝え合っているが、発達の状況や課題についての共通理解を持つことについては全員ではない。理解については、個々の保護者の認識も様々で、今後はさらに連携を密にとり、共通理解がもてるようにしていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			児童の姿から、関わり方についてなど相談を受けたりした際には、こちらでの様子や、どうすればよい方向に向うのかなどお話をさせて頂くことはあるが、家族支援プログラムの支援には至っておらず、今後、積極的に支援を行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に利用契約書・重要事項説明書などで説明を行っている。	伝わりにくいこともあるため、個々に伝え方を変えたり、より丁寧な説明を行うようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		職員にいつでも相談ができるよう、窓口担当を設けている。	コロナの影響もあり、保護者との面談の機会が減り、なかなかお話を聞けない状況がある。定期的に、電話やメール等を活用し、お話を伺っていききたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			毎年概ね4月に親子遠足を行っていたが、今年度もコロナにより未実施。保護者同士の連携を支援するには至っていない。保護者会の開催も今後検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった際は、児童発達支援管理責任者を中心に迅速な対応に心掛け、また記録に残し、周知するようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動の様子を新聞にして発信している。	定期的に発行するに至っていない。感染予防に関する活動についてなども含め、様々な情報を定期的に発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		写真を使用する際なども、その都度書面にて同意を頂くようにし、注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードや指文字などを使用したり、理解しやすいツールを用いるなど配慮している。	個々の伝達ツールや伝達方法を理解し、それぞれに合った方法で意思疎通できるようにする。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域の方々は様々な行事等取り組みに対し、協力的ではあるが、なかなか参加いただけない。今後も、ご参加いただけるよう呼びかけていきたいが、今年度についてもコロナのため未実施。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	各種マニュアルは策定しており、事業所内で常時閲覧できるし、職員研修も随時行っている。	保護者に対しては、感染症についてのお便りはお渡ししているが、その他マニュアルについても周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		法人各建物毎に毎年避難訓練は行っているが、児童の下校時間と合わず、児童の参加ができていない。長期休みなどに計画を立て実施したい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内外の研修に参加したり、カンファにて研修を行ったりしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		3か月に1度、身体拘束廃止委員会を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在、食物アレルギーの方はみえないが、あれば指示書をいただくようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットをその都度記録して報告し、カンファやメールなどを使って、皆で確認を行っている。	